

3-4 基本方針

3-4-1 現状と交通課題の分類

「2.札幌市の現状と交通課題」について、「社会経済面」および「交通モード」で分類を行い下記のとおり整理します。

(1) 「社会経済面」における現状と課題

社会経済面における現状と課題について、計画理念における「暮らし」「活力」「環境」の視点による分類を行います。

暮らし

地域生活の確保	◆ 急速な高齢化と人口急減地区の発生
	◆ 店舗の郊外化と買い物の自動車依存
	◆ 私用や通院などは、自動車（特にタクシー）の利用率が高く、車を持たないと外出しづらい高齢者

活力

都心の活性化	◆ 中央区（都心）の経済活動と求心力が低迷
	◆ 店舗の郊外化と買い物の自動車依存（再掲）
観光振興	◆ 北海道の観光一大拠点である札幌には、国内外からの多数の観光客が来訪
道内各地との連携	◆ 道内外の各地と人・物・車が行き交う札幌市
	◆ 空港・港湾・高速道路などのアクセス性が低く、国際競争力低下の懸念

環境

環境負荷の低減	◆ 市内の二酸化炭素排出量の増加、運輸部門の排出割合が比較的高い
	◆ 短距離自動車利用などの自動車依存傾向や交通混雑による環境負荷

(2) 「交通モード」における現状と課題

交通モードにおける現状と課題について、下記のとおり「公共交通」「自動車」「自転車」「徒歩」の視点により分類を行います。

公共交通	◆ 公共交通とくにバスの利用者数が大幅に減少
	◆ 公共交通の経営状況は厳しく、生活の足が確保されなくなる懸念（将来的には、公共交通機関の維持が困難。）
	◆ 冬期は、公共交通の利用割合が増加
自動車	◆ 都心部では円滑な道路交通が確保されていない
	◆ 私用交通の増加が顕著であり、特に自動車の利用割合が高い
	◆ 空港・港湾・高速道路などのアクセス性が低く、国際競争力低下の懸念（再掲）
	◆ 冬期の道路交通のサービス低下
自転車	◆ 都心部・駅周辺で増加した自転車利用（安全確保や駐輪場施設などの必要性）
	◆ 自転車利用者の約9割は、冬期にバス等へ転換
徒歩	◆ 歩道バリアフリー化の推進
	◆ 冬期の転倒事故対策